

令和7年度 第3回香美町総合教育会議 議事録

【日 時】

令和8年2月24日（火）午後3時～午後4時10分

【場 所】

香美町役場2階 第2会議室（香美町香住区香住870番地の1）

【出席者】

町 長 浜上 勇人

教育長 前田 毅

教育委員 多田 好江

教育委員 田路 一成

教育委員 上田 美登里

事務局	教育総務課長	山田 貴広
	こども教育課長	井上 修三
	生涯学習課長	田中 利彦
	教育総務課参事	清水 幸信
	こども教育課参事	上田 智康
	教育総務課副課長	井上 直樹
	こども教育課副課長	今西 勝彦
	生涯学習課副課長	中村 達也
	教育総務課総務係総括係長	宮脇 秋子

【欠席者】

教育委員 石田 雅也

【協議事項】

(1) 第3次香美町総合計画について

(2) 香美町人口ビジョン（第3版）・第3期香美町総合戦略について

【議事要旨】

1 開会

(教育総務課長)

ただいまから、令和7年度第3回香美町総合教育会議を開催いたします。開会にあたりまして、浜上町長より挨拶をいただきます。

2 あいさつ

(町長)

こんにちは。大変暖かい気候が続きましたが、今年に入ってから3度の大雪に見舞われました。教育委員の皆様には、いろいろと教育に関わる事業に取り組んでいただいておりますことを、改めてお礼申し上げたいと思います。特に、令和8年4月の香住区小学校の2次再編には、早くから検討委員会を作っていた中で、方向性を示していただきました。順調に香住区の再編が進むことを期待しております。また、村岡区の再編、それから就学前の子どもたちに対する認定こども園化の動きにつきましても、規定通りに将来を見据えた体制づくりに努めていただきたいというふうに思っております。今年度3回目の総合教育会議ということでございまして、第3次香美町総合計画、香美町人口ビジョンについて、私の方から説明をさせていただきます。人口ビジョンの中では、第3期香美町総合戦略についても説明をいたしますので、どうぞよろしくお願いをいたします。本日は誠にご苦労さまでございます。

(教育総務課長)

ここからは、浜上町長に進行をお渡しし、協議事項に入りたいと思います。それでは、町長、よろしくお願いをいたします。

3 協議事項

(1) 第3次香美町総合計画について

(2) 香美町人口ビジョン（第3版）・第3期香美町総合戦略について

(町長)

昨年、策定をいたしました第3次香美町総合計画及び香美町総合戦略について、関連をいたしますので、まとめて説明をさせていただきたいと思っております。

はじめに、第3次香美町総合計画について、私から説明を申し上げます。本町は、山・川・海の豊かな自然に恵まれ、歴史と文化を受け継いできた、かけがえのないふるさとでございます。一方で、人口減少、少子高齢化の進行、地域経済の先行き、気候変動、デジタル化の加速など、複合的で変化の速い課題に直面しております。こうした状況の中で、限られた資源を的確に配分し、住民の皆さまと行政、関係団体が力を合わせて、持続可能なまちづくりを進めていくため、本計画を策定したものであります。

第2次総合計画では、「こどもたちに夢と未来をつなぐまち」を将来像として、子どもたちの笑顔が輝くまちづくりを進め、ふるさと教育の推進や子育て支援などに取り組んでまいりました。これらの成果を礎に、今回の第3次総合計画では、まちの将来像を「みんながいきいき、笑顔あふれるまち 香美町」とし、子どもからお年寄りまで、全ての世代が生涯にわたり活躍できる地域づくりを目指します。人口が減少しても、産業を一定水準で維持し、活気と誇り、そして幸せを実感できるまちへ向けて、より実効性の高い施策を展開していく考えでございます。

計画の構成は、まちづくりの基本的な指針となる「基本構想」と将来像の実現に向けて施策を体系的に示す「基本計画」からなります。さらに、人口減少対策や地域経済の活力維持・増進など、地方創生に主眼を置く施策群を、基本計画の重点施策、第3期総合戦略として明確に位置づけ、総合計画と一体的に推進することとしております。

本日は、教育委員会に関わる分野を中心に、基本方針のうち、子育て・教育・学習について重点的に申し上げます。

本計画では、子育て・教育・学習分野を、単に個別の施策の集合としてではなく、まちの持続可能性を左右する根幹として位置付けております。人口減少が進む中であっても、子どもたちが安心して学び、育ち、やがて地域で働き、暮らし、次代を担っていく循環をつくることが不可欠であります。そのため、

就学前から学校教育、家庭・地域と連携した学び、生涯学習、スポーツ、文化芸術・歴史までを一体として捉え、取組を進めてまいります。

まず、「子ども・子育て」については、小学校の学校再編や就学前施設の認定こども園化を進めつつ、今後のますますの少子化と家庭環境の変化を踏まえ、適切な教育・保育体制と放課後の子どもたちの居場所づくりに取り組みます。

次に、「学校教育」についてであります。子どもたちの「未来を切り拓く力」の育成を図るとともに、本町の発展を思い、まちの将来を担う人材を育て、町の活性化を図ってまいります。具体的には、基礎・基本の定着を土台に、「ほめる」「認める」指導と、主体的・対話的で深い学びに向けた授業の改善を進めます。あわせて、ICT機器を日常的に活用し、個別最適な学びと協働的な学びの充実を図るとともに、教職員のICT活用力を高めます。さらに、外国語活動・英語教育の充実に向け、外部人材や交流機会を生かし国際的視野を育みます。また、山・川・海の自然や歴史文化を教材化した体験学習を通じ、ふるさとを思い考え行動する力を養います。そして、部活動は地域人材・団体と連携し地域展開を進め、指導者確保や受け皿整備、移動・安全面に配慮した持続可能な体制を整えてまいります。

「生涯学習」については、学びを子どもたちだけのものとせず、住民一人ひとりが学び続け、地域活動や仕事、健康づくりに生かせる環境を整えることが、地域力の維持・向上につながります。公民館活動をはじめ、世代を超えた交流の場や学習機会を確保し、地域のつながりを育む取組を進めてまいります。

「スポーツ」については、健康づくりにとどまらず、仲間づくり、地域交流、子どもの健全育成にも資する重要な分野であります。誰もが年齢や状況に応じてスポーツに親しめる環境づくりを進め、地域の活力につなげてまいります。

「文化芸術・歴史」については、本町の誇る歴史文化を守り伝えることが、地域アイデンティティの形成に直結します。子どもたちが地域の文化に触れ、学び、次代に継承していく営みは、郷土への誇りを育み、将来の担い手づくりにもつながります。文化財の保存活用と、学習機会の創出を両輪で進めていきたいと考えております。

以上が、第3次総合計画のうち、教育委員会に関わる分野を中心とした説明でございます。町民の皆さまの声を踏まえつつ、分野横断で連携し、「人づくり」

を軸に施策を推進してまいりますので、教育委員の皆さまには、引き続き豊富なご見識をもってご指導、ご協力を賜りたいと存じます。

引き続き、第3次香美町総合戦略についてご説明申し上げます。国におきましては、人口減少の加速に対し、地方創生の取組が進められてきましたが、近年はデジタルの力を活用して地方創生を加速させる方向が強まり、国の総合戦略も新たな枠組みのもとで推進されております。こうした国の動向を踏まえつつ、本町においても、これまでの取組の検証と、現状の人口動態を踏まえた見直しが必要となり、このたび人口ビジョンを改定し、次期5か年の総合戦略を策定いたしました。

まず、人口ビジョンは、本町の人口の現状と将来推計を示し、住民と課題認識を共有する基礎資料です。詳細な説明は省きますが、本町は自然減・社会減で人口減少が加速し、若年層の転出も大きいことから、移住定住の促進と結婚・出産・子育て支援を軸に、人口減少の要因に対応していきます。

第3期総合戦略は、人口ビジョン実現に向けた地方創生施策を整理したものです。今回の改訂では、総合戦略を第3次総合計画の重点施策として位置づけ、計画を一体的に進め、進捗管理と評価・検証を踏まえ推進します。

ここでも、教育委員会に関わる観点から申し上げます。人口減少対策の中心の一つは、まさに、若い世代の結婚・出産・子育ての希望の実現であり、その実現には、保育・教育環境の充実が不可欠でございます。子育て世代が「この町なら安心して子どもを育てられる」と感じること、子ども自身が「この町で学び、育って良かった」と実感できることが、定住にも、将来のUターンにもつながってまいります。

また、若年層の転出が大きい要因の一つに、進学等による町外移動があります。これに対しては、単に転出を抑えるという発想だけでなく、町内で学び経験した若者が、再び香美町に戻り、働き、暮らし、地域に関われる「戻ってこられる環境」を整えることが重要であります。そのためにも、子どもの頃からのふるさとへの愛着形成、地域をフィールドとした学び、地域とのつながりを持ち続ける仕組みづくりは、教育分野が果たす役割として大変大きいと考えております。

さらに、生涯学習、スポーツ、文化芸術の振興は、暮らしの満足度を高め、

地域のつながりを強める基盤となります。住民がいきいきと活動し、交流が生まれる地域は、移住希望者にとっても魅力的に映ります。教育委員会が担う社会教育の取組は、人口対策・地域づくりとも密接に関係していることを、改めて共有したいと思います。

本町では、総合計画、人口ビジョン、総合戦略を一体的に推進するとともに、デジタルも活用しながら、人口は減少しても現行の産業規模の維持を図ります。また、災害に強いまちづくり、財政規律を遵守し、将来に負担を残さない財政運営を目指してまいります。子どもからお年寄りの皆さんが活躍するまち「みんながいきいき、笑顔あふれるまち 香美町」を目指してまいります。

本日お示ししております計画に基づき、就学前から学校教育、社会教育に至るまで、人を育てる取組を町政の中心に据えて、関係機関と連携しながら進めてまいりますので、教育委員の皆さまには、引き続きご理解とご協力、そして忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。

ただ今、私の方から簡単に説明をさせていただきました。総合計画と総合戦略の説明の中で、教育委員の皆さまで何かご意見がございましたら、お願いをいたします。

(上田委員)

これから来年度予算案が審議されるということですがけれども、財政が厳しい中であっても、子どもの教育に関して、とても力を入れて下さっていて、子どもの給食費無償化を他に先駆けてしていただいておりますし、学校再編に関しても、予定通りに進んでいない市町があるところをみると、関係の方々の努力で予定通りに進んでいるということは誇らしいことです。どんどん人口が減っていくというのは、どこでもそうなんだろうけど、私たちが若い時は、大人からよく「人並みに」ということを言われておりましたが、今、そういう言葉は死語になりつつあって、多様な生き方とか考え方を認めて尊重し、折り合いをつけていくというのは、学校の中だけではなくて、大人にとっても大事なことだと思っております。意外と年齢の高い人ほど、皆さんやさしい気持ちでいらっしゃるんですけど、今とはちょっとずれているような人権感覚があったり、知った顔ばかりの中で生活してきておりますので、外国から来られる方と

か、移住者の方に対しても、どういうふうに接していいものかっていうのもあったりするんで、そういう勉強する場を村とか地区の単位で、難しい講演を聞くという形ではなくて、話し合うというようなところもあっていいのかなと思います。若い方に住んでいただいて、子どもを産んで人口を増やしていただくということも、もちろん大事なのかも分かりませんが、今は本当に生き方も多様で、結婚するしない、子どもを持つ持たないというのも、それぞれの価値観で人生を送るという人たちが多くて、もちろん周りの方との関りを持ちながらですけど、結婚しない人も、子どもを持たない人も、高齢者の方も、それぞれが住んでいいなって思えて、それぞれのその多様ないろんなものを尊重し合って、認め合いながら折り合いをつけながら、みんなが暮らせるような雰囲気を作っていけたらいいのではないかと思います。子どもを持つということは夫婦で考えることですし、いろんな支援を町でもしてくださっているのは承知していますけれども、子どもを産めばこれをしてあげますとか差し上げますというのも直接的にうれしいことかもしれませんが、自分たちの経済力で、その家庭や子どもを育てて生活が維持できるということを、母だから子どもの為に身を削ってというのではなくて、一人の人間として仕事をしたいという人もたくさんいらっしゃるんで、産休とか育休とかで休んでも復職できる保証があるとか、社会全体でサポートをしてあげて、その一つ一つのケアによって家庭の経済力が高まって、自分たちの力で家庭を維持し子どもを育てるというふうになればいいなと考えています。

(多田委員)

総合計画審議会の委員として教育委員から1人出ないといけないということで、私がそこへ出させていただけにいました。まちの将来像の言葉を決めるにあたって、以前は、「子どもたちの夢と未来をつなぐまち」ということで、いわゆる教育に一番スポットが当たったというか、基本方針の一番にも教育が上がっていましたが、それが今回、まちづくりに関する住民の意見の中では、地域を担う産業人を育むまちの推進について、どの地区からも強化領域として町民の皆さんの意識が強く出されていて、そういう意見交換の中で、子どもだけではなく、「みんながいきいき、笑顔あふれるまち 香美町」という、まちの

将来像になりました。教育のことがないがしろにされたら残念だなと思っていましたが、先ほどの説明で、教育は「まちの持続可能性を左右する根幹である」というお言葉を聞いて安堵しました。やはり一番大切なことであると思いますので、もちろん、これからもそこを大切にしていこうという、私たちの根底にあるものを確認させていただけたような気がしました。先月に二十歳のつどいがありまして、香美町は随分出席率が高くて、この子たちがみんな香美町に帰って来てくれたらなんて、実際にはあり得ないことですが、そんなことも思いました。その代表の子が話していた言葉が、「ふるさと教育で香美町はとてもいい町だということを私は誇りに思っています」というようなことを語っているあの言葉が出ていまして、香美町に誇りを持ってきているということがすごく嬉しかったですし、間違っていなかったんだということを感じました。産業の面で発信をしていけば、この町で育った子どもたちが、町の魅力、既に知っている魅力を思い出して、Uターンしてきてくれたらうれしいですし、そこを何かもっともっと発信していく、何か発信力がすごく求められているということを感じています。あの子たちがみんな、みんなは難しいけれども、たくさん帰ってきてくれたらなということ、その二十歳のつどいをきっかけに感じているところです。

(田路委員)

やはり人口減少といいますけど、もう異常事態であると感じるところがあります。香美町内全域の出生数が50人に満たなくなっている。こういう状態の中で教育を考えました時には、やはり将来の香美町を担う人材を、どういうふうに育てていくかということになってくると思います。ふるさと教育は、香美町の教育の中でも柱といいますか、これを大事にして、香美っていうところは素晴らしいところなんだということについて、小さい時からいろんな機会に教えていくということが一番には大事であると思います。香美という町は、本当に素晴らしい、自分にとって大切に、どうしてもこれを守り育てなければいけないという教育をしたうえで、進学などでどうするかということになったときに、行くなどとは言えなくても、香美を大事にしなければいけないという意識は忘れずに持っていることが大事だと思います。具体的に何ができるかと考えますと、

例えですけど、今の教育を土台にして、香美町に戻ってくることを約束する奨学制度とか、住むところや、帰ろうとしたときに住むところや職場を確保してあげられますというところを示すことも、その子どもたちが大きくなった時に、香美に目を向けてくれるかどうか大事なところだと思います。それから、二十歳のつどいのごとが出てきましたけど、ここにあれだけの出席者がいてくれるということは、香美を思う心があるんだという前提のもとで、あの子たちに尋ねてみることも大事なかなと思います。香美に戻ってきてくれるかどうかから始めて、どうしたら戻って来てくれるかということまで尋ねてみるということも、働きかけとしては大事だと思っていまして、多田委員が言われたように、今後積極的な働きかけということも必要になるのではないかと思います。こんなに人口が減ってきている中で、今の人材育成とともに、外国人労働力の活用といったところでも、ご家族で定住され、学校で他の子と同じように勉強して、同じように運動して過ごされるような姿、そういう姿が普通にあってもおかしくないような香美というのも、これからの展望として考えなければいけないと思ったりもします。教育から離れますけど、高齢の皆さんが買い物や病院に行くための交通手段がないということで、本当に不自由な思いをされている方もあると聞きますと、交通ネットワークの確保は高齢者には保証しますというような施策も、ぜひ考えていただければありがたいと思います。

(教育長)

これからは、戻って来られる環境というのが、すごく大事だと思います。戻って来られる環境を、今いる人がどれだけ作ってやれるか。この学校再編もそれだと思います。二十歳のつどいの出席者が、他市町は60%くらいであるのに対し、香美町はずっと80%台をキープしています。やはり、ふるさと教育で、いろいろ一生懸命してきたものの一つ成果だと思うし、親の育て方もそうだと思うし、地域の育て方もそうなんだけど、その80%がある間に、その子どもたちが大人になった時に、「帰ってこい」ではなくて、「帰って子育てしたいな」と思わせられるかどうかだと思います。だから、東京行こうが、どこに行こうが、ただ子育てするときには、香美で育てようと思うかどうか、遠いところの北海道に行きたくて大学に行かせたけど、戻って来られる環境があるかどうか、

神戸でさえ人口減少しているわけですから、10人でも20人でも、そういう気持ちになって、1人でも2人でも3人でもいいから、それができていたら、その積み上げなんだろうと思います。

(町長)

それでは、総合計画と総合戦略は、教育長はじめ、教育委員の先生方にも認めていただいたという認識でおります。この実現に向けて、特に教育分野は、皆様のご意見でもありますように、少子高齢化の異常なスピードがあります。以前からそれを考えながら、学校再編には取り組んできたということを考えますと、今の状況に沿った取り組みを進められているというふうに思っております。また、就学前の認定こども園化も進めておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

(2) その他

(町長)

教育行政全般について、委員の皆さんから何かございましたら、どうでしょうか。

(田路委員)

出生数が減ってきている状態が続いておりますが、学校再編が、香住、村岡とききましたけど、これで終わりにならない可能性もあると感じています。

(町長)

小代も村岡も香住も人口が減っている中で、統合後の小・中学校の運用やあり方を、教育委員さんに把握していただいたり、判断をしていただくような時期が来るのか来ないのかは、今の時点では分かりません。

(上田委員)

4年前に教育委員にならせていただいたときに、小・中学校の卒業式と入学式で、保護者の方と話す機会がありました。近所に子どもがいない、遊びに行

くのも保護者が送迎をしないといけない時代にあつて、部活もバレーしかない、バスケットしかないという状況で、それでもいろんなことがしたいから親が送って行ってクラブチームに参加させておられて、学校がなくなるということは、昔ならお嫁さんが来ないということになったかも分からないけど、もう小代区という考え方があまりないので、送迎があまり親の負担にならないような、スクールバスとかいうことを考えてくださって、大きいところにまとまるということは私たちの希望ですと、その時にはっきり言われたので、それが保護者の方の総意かどうかは確認ができていませんが、親御さんたちは、何区、何区に関わらず、たくさん子どもたちがいるところで、いろんなことにチャンスを与えてやってほしいというふうに思っておられるという話をしたことがありました。小代のことも、将来的にはもうこれでいいんだというふうには考えて欲しくないなので、状況を見ていただいて、柔軟に対応していただきたいと思っています。

(町長)

ありがとうございました。それではいろいろとご意見を頂戴しました。時間が参りましたので、以上で、終了とさせていただきたいと思います。慎重な協議をありがとうございました。総合教育会議を通じて、いろいろと調整を行い、より一層皆さんとの連携を深めて、香美町の教育の更なる充実に向けて努力をしまいたいと考えておりますので、よろしく申し上げます。それでは事務局にお返しします。

4 閉会

(教育総務課長)

ありがとうございました。本日皆様から頂きましたご意見を参考に、今後の教育行政を進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。それでは、本日の総合教育会議を閉会いたします。